

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
専門学校岡山情報ビジネス学院		昭和61年7月26日		三村 光		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人 三友学園		昭和61年7月26日		池田 基熙		〒 700-0024 (住所) 岡山県岡山市北区駅元町1番4号 ターミナルスクエア内 (電話) 086-224-2336		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
教育・社会福祉	教育・社会福祉専門課程		保育学科		平成11(1999)年度	-	平成28(2016)年度	
学科の目的	子どもの心に寄り添い、成長をサポートできる保育士・幼稚園教諭をめざす。保育者としての自覚、人間形成の基礎をつくる大事な時期の子ども達に対して保育をする責任感とやりがい、また保護者や地域に方々への対応ができる人間力も養う。保育や福祉の現場に必要な知識や実践力を修得し、即戦力、可愛がられる人材を育成する。							
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	【取得可能な資格】保育士 幼稚園教諭二種免許 社会福祉主事任用資格 短期大学士 他							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	2,605 単位時間	1,100 単位時間	985 単位時間	850 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		単位	単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率		
65 人	22 人		0 人		0 %	12 %		
就職等の状況	■卒業者数(C) : 8 人							
	■就職希望者数(D) : 6 人							
	■就職者数(E) : 6 人							
	■地元就職者数(F) : 5 人							
	■就職率(E/D) : 100 %							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 83 %							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 75 %							
	■進学者数 : 0 人							
	■その他							
	進学、アルバイト (令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 【業界】保育園、幼稚園、福祉施設 【就職先】社会福祉法人岡山愛育会 みのりの木保育園、社会福祉法人まあれ愛恵会、株式会社コスモス、社会福祉法人湯野福祉会 宮前こども園、社会福祉法人 古都の森、社会福祉法人子ども協会 いちようの森こども園							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf							
当該学科のホームページURL	https://oic-ok.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数				2,605 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数				450 単位時間			
	うち企業等と連携した演習の授業時数				0 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修授業時数				180 単位時間			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数				180 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数				0 単位時間			
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)				180 単位時間			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B: 単位数による算定)							
	総単位数				単位			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数				単位			
	うち企業等と連携した演習の単位数				単位			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち必修単位数				単位			
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数				単位			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	うち企業等と連携した必修の演習の単位数				単位			
	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)				単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				0 人			
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				2 人			
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				1 人			
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				3 人			
	計				6 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				1 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科が考える教育に関する基本方針が、今の現場が求めるニーズに合っているかどうかを確認し、その中で、足りていない点において、そこを強化するための助言を編成委員の方よりいただく。また、保育の現場で通用する社会人として今の保育に関する情勢や、保護者対応、子育て支援方法を知り、今後の授業における授業内容の改善、新たな科目の開設などを行い、他の学校との差別化を図る。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

保育士・幼稚園教諭・社会福祉分野における人材育成のために、保育園・幼稚園・社会福祉分野関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて、教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラムの等の開設・改善・工夫等を行う。第1回委員会では、前期学科運営状況の報告を行い各委員より改善意見やご提案をいただき具体的な取り組み方策の検討案の提示を行う。その後、後期学科運営で検討案の実施を行い、第2回委員会にて実施状況の報告と次年度に向けた新たな教育課程の提示を行い各委員より再度意見や助言をいただき次年度の具体的な教育課程の最終案を決定し承認をいただく。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
夏井 将行	社会福祉法人 ももぞの学園 障がい児入所施設 ももぞの学園 施設長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
小林 淑子	社会福祉法人 岡山千鳥福祉会 大元ちどり保育園 園長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	③
多久和 阿沙子	一般社団法人たくわ式学習塾 理事	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	①
中上 篤	専門学校岡山情報ビジネス学院 医療・保育系学科群 課長補佐	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	—
伊丹 稔博	専門学校岡山情報ビジネス学院 保育学科 学科長代理	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月26日(月) 16:00～18:00

第2回 令和7年2月4日(火) 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・近年、保育士不足といえど自分の意思を持ってない学生も少なくない。保育学科の学びを経験して現場で活躍している学生も多い。彼らの姿を見せる機会を講義の中に設けてはどうか。

→業界研究、卒業生を囲む会に加え、保育者論など科目とも連動しながら専門職の魅力発信に努めたい。

・「考える力」を磨いていく必要がある。体験しながら実践的に学ぶ場が実習以外にもあるとよいのではないか。

→園見学、ボランティアなど体験的な学びの場を有益に活用していく。

(別途、以下の資料を提出)

- * 教育課程編成委員会等の位置付けに係る諸規程
- * 教育課程編成委員会等の規則
- * 教育課程編成委員会等の企業等委員の選任理由(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-1
- * 学校又は法人の組織図
- * 教育課程編成委員会等の開催記録

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

「保育園指定保育士養成施設の指定及び運営の基本について」に準じた認可保育園・認定子ども園（保育所型・幼保連携型）の中で、本校の教育方針を理解していただき保育士に必要な専門知識の習得だけではなく具体的に保育現場で求められる人材育成に即した実習が体験でき、かつ岡山県保育士養成協議会において登録された保育士としての実践的な実習ができる保育園を選定している。（状況に応じて各学生の適性・希望等を総合的に判断し決定していく）

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習科目担当の教師が「保育士養成協議会」で出された「保育所実習の手引き」に基づく実習内容を実習前に事前に実習園と確認、調整を行い、実習内容、学生の学修成果指標等について定める。実習期間中に担当教師が実習園を訪問し、学生の実習態度、行動、状況を把握するとともに実習担当者もしくは園長と情報交換等の連携をしながら実習授業運営を行う。実習終了時には、実習園実習担当者及び園長による学生の学修成果の評価と実習日誌をふまえ、担当教員が成績評価、単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
教育実習（前期）	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	幼児や教師と生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解する。	瀬戸内市立国府幼稚園、学校法人伊達学園 認定こども園月見幼稚園、他7園
保育実習Ⅰ（保育所）	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を養う。また、実践的に計画、実践、評価、反省を行うことで課題発見する。	岡山市陵南認定こども園、社会福祉法人祥求会 あしたか保育園、他7園
教育実習（後期）	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	教育実習（前期）の振り返りを基に、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、教師の仕事について具体的に理解する。	学校法人同心学園 同心幼稚園、学校法人虫明学園 中仙道幼稚園、他6園
保育実習Ⅰ（施設）	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	施設実習を通して出会う人々と直接関わりながら、援助の理論と実践に関して理解を深める。	社会福祉法人 P. P. P.、社会福祉法人 弘徳学園、他2施設
保育実習Ⅱ	3. 【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	保育実習Ⅰの反省を踏まえ、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を習得する。	社会福祉法人 岡山愛育会 みのりの木保育園、社会福祉法人 粒栄会 新田保育園、他6園

（別途、以下の資料を提出）

* 企業等との連携に関する協定書等や講師契約書（本人の同意書及び企業等の承諾書）等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と関係者に対して研修内容の共有を行う。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	保育実習委員会	連携企業等：	保育実習委員会
期間：	令和6年4月18日	対象：	保育系教員
内容	岡山には数多くの保育士養成校があり、保育士の資質向上や質の高い現場実習を行うために養成校同士の共通理解、実習の調整などを図る必要があるので保育士養成協議会という組織があり、本校も所属している。今回の研修では、各養成校で実習における授業方法や、運営の仕方など、意見交換を行う。よりよい実習を行うため、また質の高い保育士を育成するため、実習における問題点や改善点などを養成校の中で共有し、協議を重ねていく研修である。また、それに伴い、講師を子ども家庭庁職員を招いて、情報共有を行う。		

研修名:	くらしき幼児教育ネットワーク	連携企業等:	くらしき幼児教育ネットワーク
期間:	令和6年6月14日	対象:	保育系教員
内容	倉敷市の私立幼稚園連盟主催による、幼児教育と保育者養成についての情報交換や現在抱えている課題解決に向けて対策などを検討、協議を重ね、より保育者の育成を図る研修である。本校も会員として所属し、現場の先生方からリアルな声を聴き、学生指導に活かしている。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	「志セミナー」株式会社ミアーズ 代表取締役 前村美樹さん講演	連携企業等:	株式会社ミアーズ
期間:	令和6年6月13日 9:30-10:30	対象:	教員
内容	業界をリードする経営者を講師に迎え、自身の経験を踏まえながら、「変化する時代に生き抜く力を身に付ける方法」「自身の力でキャリアをデザインする生き方」について講演いただく。自分自身の人生や社会課題の解決について考える機会とし、一人ひとりのやる気と行動の原点につなげていく。		
研修名:	学生指導力を向上させるマネジメント研修	連携企業等:	株式会社インソース
期間:	令和7年3月11日～12日	対象:	学科責任者
内容	学校における強みを理解し、教職員が柱である授業運営やガイダンスに注力できる環境を構築し、学生指導力の向上を図る。		
研修名:	専門学校における発達障害支援とは？	連携企業等:	筑波大学ダボットプロジェクト
期間:	令和7年1月16日	対象:	学科責任者
内容	学校における強みを理解し、教職員が柱である授業運営やガイダンスに注力できる環境を構築し、学生指導力の向上を図る。		
(3)研修等の計画			
①専攻分野における実務に関する研修等			
研修名:	養護実習委員会	連携企業等:	岡山県養護実習委員会
期間:	令和7年4月10日	対象:	学科責任者
内容	岡山には数多くの保育士養成校があり、保育士の資質向上や質の高い現場実習を行うために養成校同士の共通理解、実習の調整などを行う必要があるので保育士養成協議会という組織があり、本校も所属している。今回の研修では、各養成校で実習における授業方法や、運営の仕方など、意見交換を行う。よりよい実習を行うため、また質の高い保育士を育成するため、実習における問題点や改善点などを養成校の中で共有し、協議を重ねていく研修である。また、実習先施設より学生への指導や実習中の様子などの意見交換も行っている。		
研修名:	くらしき幼児教育ネットワーク	連携企業等:	くらしき幼児教育ネットワーク
期間:	令和7年6月24日	対象:	学科責任者
内容	倉敷市の私立幼稚園連盟主催による、幼児教育と保育者養成についての情報交換や現在抱えている課題解決に向けて対策などを検討、協議を重ね、より保育者の育成を図る研修である。本校も会員として所属し、現場の先生方からリアルな声を聴き、学生指導に活かしている。		
研修名:	教員/支援者向け 「不登校の子どもと家族」の理解と対応	連携企業等:	LITALICOキャリアセミナー運営事務局
期間:	令和7年7月9日	対象:	学科責任者
内容	不登校の背景にある多様な要因を理解し、児童一人ひとりに寄り添った対応の重要性について。児童の不登校傾向に対し、家庭や本人に原因を求めてしまいがちな自分自身の認識に気づき、不登校は複数の要因が複雑に絡み合っていることを前提とした柔軟な対応が求められることを再確認していく。また、不登校児童への関わり方だけでなく、保護者対応や他の児童への説明の仕方など、現場で直面する具体的な課題に対して、経験豊富な講師から実践的な助言を受けました。声かけの際には、タイミングや言葉選びを学ぶ。		
②指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	組織を強くする人材育成	連携企業等:	株式会社東京カモガシラランド
期間:	令和7年5月7日	対象:	学科責任者
内容	人材育成の重要性を再確認し、日頃のマネジメントに活用することにより、教職員全体の成長につなげていくとともに、学生指導にも効果的に活用する。		
研修名:	AI活用術	連携企業等:	ユースフル株式会社
期間:	令和7年10月予定	対象:	教員
内容	ChatGPT等のAI技術を活用することによる授業準備効率の向上手法を学ぶ。		

研修名:

救命救急講習

連携企業等:

岡山市消防局

期間:

令和7年8月予定

対象:

全教職員

内容

心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法など、基本的な応急処置を学ぶ

(別途、以下の資料を提出)

* 研修等に係る諸規程

* 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績)

* 研修等の計画(推薦年度における計画)

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の順守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

入試を実施しても、ほぼ全員が入学する状況であると考えられる。こうした状況を踏まえ、今後どのような取り組みが必要であるかについてご意見をいただいた。

その中で、本校の強みの一つである「面倒見の良さ」は引き続き維持しつつ、アドミッションポリシーに掲げる「これまでより、これから」を意識し、入学後に学生自身の意思によって成長できるような支援を行っている。

具体的には、教職員が一丸となって、授業や個別面談、課外活動、キャリア支援など、あらゆる場面で学生に寄り添い、声をかけ、適切な支援や挑戦の機会を提供するなど、積極的かつ継続的に関わっている。

あわせて、アクティブラーニングやプロジェクト型学習など指導方法の工夫を重ね、学生の主体的な学びを促すとともに、地域や企業、卒業生との連携を通じて、実社会とつながる学びの場を構築している。今後もこうした多面的な取り組みにより、学生一人ひとりの成長を着実に支えていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
畑 嘉昭	株式会社トスコ 代表取締役社長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員 (IT)
平野 彰一	社会福祉法人岡北福祉会 岡北学園 理事長	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業等委員 (保育)
守井 照久	税理士法人 創明コンサルティング・ブレイン 代表社員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (会計)
真鍋 洋志	菅公学生服株式会社 取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ビジネス)
山本 渉	医療法人 和香会 倉敷スイートホスピタル 事務局長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (医療)
豊田 東	ハイオシステム株式会社 岡山国際ホテル 総支配人	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ホテル)
高橋 京恵	株式会社FIL DESIGN 代表取締役	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (デザイン)
北牧 涼輔	NAYUG合同会社 代表社員	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (ゲーム)
米谷 紀彦	自衛隊香川地方協力本部 東讃地区隊長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (公務員)
芳原 慶真	コーセーエンジニアリング株式会社 総務部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	企業等委員 (留学生)
早崎 律貴	スマートスケープ株式会社 DE事業部 製造ソリューション部 部長	令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	卒業生
藤田 直樹		令和7年4月1日～ 令和9年3月31日(2年)	保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oic-ok.ac.jp/about/info/>

公表時期: 毎年10月1日に更新

(別途、以下の資料を提出)

- * 学校関係者評価委員会の企業等委員の選任理由書(推薦学科の専攻分野との関係等)※別紙様式3-2
- * 自己評価結果公開資料
- * 学校関係者評価結果公開資料(自己評価結果との対応関係が具体的に分かる評価報告書)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oic-ok.ac.jp/about/info/>

公表時期: 毎年6月に更新

(別途、以下の資料を提出)

- * 情報提供している資料

(備考)

・用紙の大きさは、日本産業規格A4とする(別紙様式1-2、2-1、2-2、3-1、3-2、4、5、6、7、8についても同じ。)

授業科目等の概要

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			ビジネス実務ⅠA	就職活動のプロセスの理解を深め、具体的な行動を起こせるよう自主性を身につける。	1前期	60	4	△	○		○		○		
2	○			健康科学	「健康」の概念・運動の効果・原則などについて知識や関心を高め、スポーツ活動・生涯スポーツの重要性について理解する。	1後期	15	1	○			○			○	
3	○			生涯スポーツ	バレーボールやバドミントンなどの技能の向上を目標としながら、スポーツ文化が形成されてきた歴史的・社会的背景について理解を深める。	1後期	45	1	△		○		○		○	
4	○			情報処理入門Ⅰ	エクセル基礎を学び、簡単なワークシートの作成とデータ入力を行えるようにする。表計算・ビジネス図表に関する基礎を身につける。	1通年	30	2	△	○		○		○		
5	○			日本国憲法	憲法とは何か（憲法の意味・近代憲法の原則・憲法規範の特質・現代憲法への展開）、日本国憲法全体の主要事項の内容を理解する。	1後期	30	2	○			○		○		
6	○			幼児と音楽表現	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、音楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。感性を育む音楽鑑賞をする。	1後期	15	1		○	△	○			○	
7	○			教育心理学	教育現場で必要となりうる心理学の基本概念と基礎知識を学ぶ。子どもの経験と学習の過程を理解する。	1前期	15	1	○			○			○	
8	○			幼児の心理学	幼児の発達にかかわる心理学の基礎を習得し、発達を捉える視点を理解する。教育や発達に即した援助の基本となる幼児への理解をする。	1前期	15	1	○			○		○		
9	○			健康（指導法）	子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境についての理解を深める。	1前期	15	1	○			○		○	○	
10	○			人間関係（指導法）	子どもの人間関係の形成を援助し、促進するための知識を学ぶ。自立心を育て、人と関わる力を養うことについての基礎を習得する。	1前期	15	1	○			○			○	
11	○			教育原理	教育の本質や目的、関連する法令や行政についての基本的理解を養う。また、指導要録や学級経営の方法や意義について考察ができるようになる。	1前期	30	2	○			○		○		

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			造形表現 (指導法)	授業では幼児の造形の発達理論と幼児に適した実践的な造形表現の研究を基に、作品制作ができるようになる。(コラージュなど)	1後期	15	1	○		△	○			○	
13	○			音楽表現 (指導法)	この授業では、領域「表現」の主に「音楽表現」の分野における、子どもの発達と発達段階に応じた「あそび」について理解するとともに、保育者に必要な柔軟性に富んだ発想力・表現力を身につける。	1前期	15	1		○		○			○	
14	○			環境 (指導法)	子どもにとっての人的・物的環境、自然環境などがどのようなものか、また子どもの興味・関心を促し環境構成の在り方を学ぶ。	1前期	15	1	○	△			○		○	
15	○			言葉 (指導法)	経験したことや考えたことなどを表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を身につける。	1後期	15	1	○			○			○	
16	○			児童文化	児童文化の重要性を十分に認識し、内容を把握させ、実践的な児童文化の理解者としての力を身につける。	1前期	30	2	○			○			○	
17	○			幼児と言葉	子どもの発達と絵本、紙芝居、人形劇などの児童文化財に親しむ体験を理解する。子どもの経験や様々な表現活動を児童文化財等と結びつけ、子どもの生活と遊びが豊かに展開するための技術を習得する。	1後期	15	1	○			○			○	
18	○			幼児と人間関係	子どもの「人とのかかわる力」を育てることの重要性と、領域「人間関係」に基づく幼稚園・保育所の役割を理解する。領域「人間関係」に関するねらいと内容に関する専門的知識を身につける。	1後期	15	1	○			○		○		
19	○			幼児と環境	領域「環境」のねらい及び内容を理解する。幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身につける。	1後期	15	1	○			○		○		
20	○			社会福祉	社会福祉の概念や歴史、生活問題、わが国の政策動向の変化と支援をめぐる今日的課題、社会福祉政策等、社会福祉全般の関わりを学ぶ。	1前期	30	2	○			○			○	
21	○			保育原理	保育の対象となる乳幼児の特性や保育の思想・制度の発達などの概観を通して、保育に関する基礎的な知識を習得する。	1前期	30	2	○			○		○		

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
22	○			社会的養護Ⅰ	養護の歴史、また児童福祉法改正後の児童養護のあり方、問題点に焦点をあて、家庭養護と社会的養護との相互関連を身につける。	1後期	30	2	○			○			○	
23	○			劇あそび(指導法)	子どもの持つ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導力・援助法を体得する事を目標とし、創造性を豊かに表現することを身につける。	1後期	15	1		○	△	○			○	
24	○			教育課程総論	教育課程の意義とその編成、指導計画の作成について理解する。	1前期	30	2	○			○		○		
25	○			教育方法論	保育者として必要な保育指導の本質を学び、幼稚園教育要領及び保育所保育指針に基づきながら、指導のねらいや指導の方法などの知識を身につける。	1後期	30	2	○			○			○	
26	○			教職概論	昨今の様々な教育（保育）課題について理解を深め、いま求められる教師（指導者）像について考えることができる。	1後期	30	2	○			○		○		
27	○			保育内容総論	保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容を理解するとともに、保育の全体的な全体構造を理解する。	1後期	15	1	○			○		○		
28	○			音楽Ⅰ	声楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、声楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。また、音楽鑑賞を通して感性を身につける。	1通年	60	2	△		○	○			○	
29	○			ビジネス実務ⅡB	基本的なビジネスマナーについて社会人常識マナー検定を通じて習得する。	1後期	15	1	△	○		○		○		
30	○			造形表現	幼児の造形表現の発達段階と身体的特徴、幼児教育における美術表現技法を学ぶ。表現技法を組み合わせ、実際に作品を制作する。	1通年	30	2	○		△	○		○		
31	○			図画工作Ⅰ	造形・色彩研究・デザインなどの学習を通して、幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法を習得する。	1前期	15	1		○	△	○		○		
32	○			身体表現Ⅰ-1	遊びをとおしてリズム感や創造力、表現力を身につける。歌ったり踊ったりしながら技術を磨いていく。	1前期	15	1		○	△	○		○		
33	○			身体表現Ⅰ-2	遊びをとおしてリズム感や創造力、表現力を身につける。歌ったり踊ったりしながら技術を磨いていく。	1後期	15	1		○	△	○		○		

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
34	○			食育Ⅰ	食べ物への感謝の気持ち・食事のマナー、家族のつながり・こころとからだの健康のこと・地球の環境のことを考える力を身につける。	1前期	15	1	○	△		○		○		
35	○			保育所実習指導Ⅰ	保育に関する基礎的な知識や技能を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を養う。	1後期	30	2	○	△		○		○		
36		○		ペン字上級	日常生活に役立つ行書（美しいつづけ字）を学ぶ。 行書のルールを覚え、一筆箋、封筒、年賀状、のし袋（筆ペン）を書いてみる。	1後期	15	1		○		○			○	
37		○		ビジネス英語	グローバル社会が進む中、企業内の標準言語が英語になるなど、ビジネスにおいて英語を使う機会が増えている。ビジネスの場で、簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付けることを目的としている。	1後期	15	1	○			○			○	
38		○		エクセル上級	Excelのスキルををあらゆるビジネスシーンで活用できるように、基礎知識から応用まで幅広く学び、PCスキルを社会で活かせる人材育成を目的とする。	1後期	15	1		○		○		○		
39		○		医療事務	医療機関の役割、医療保険制度の仕組みを知り、簡単な医療費の計算方法を習得する。	1後期	15	1		○		○		○		
40		○		RPA実習	作業自動化ツールであるRPA(Robot Process Automation)の構築を題材に、プログラムの思考力を養う。	1後期	15	1		○		○		○		
41		○		情報リテラシー	業務で役立つWindowsの便利な機能や、社会に出てから必要となるセキュリティ知識やAIの活用方法などについて学ぶ。	1後期	15	1		○		○		○		
42		○		データマーケティング	データを根拠に考え、新しいアイデアを考案するための方策を学ぶ。Excelを活用した分析手法についても修得する。	1後期	15	1		○		○		○		
43		○		ファイナンスプランナー	身近なお金の知識やこれから必要になるお金の知識を学ぶ。投資など資産運用について基本的な知識を身につける。	1後期	15	1	○			○		○		
44		○		一般知能	数的推理・判断推理を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける。	1後期	15	1	○			○		○		

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
45		○		フラワーアレンジメント	フラワーデザインの基本的な知識を習得し、形や構成からテーマを表現する。	1 後 期	15	1		○		○			○	
46		○		ゲームプログラミング	ゲームプログラミングを通じて論理的思考法を身に付ける	1 後 期	15	1		○		○		○		
47		○		広告映像	会社の広報SNSなどに必要な写真の撮影、および動画制作を通して、情報や魅力をわかりやすく伝える力を身につける。	1 後 期	15	1		○		○		○		
48		○		ビジュアルデザイン	デザインアプリFigmaを使用。商業デザインの制作を通して、レイアウト、表現技法を学ぶ。	1 後 期	15	1		○		○		○		
49		○		世界情勢	自国の習慣や考えだけにとらわれることなく、他国の習慣・文化に共感し、異文化間での協力関係を構築する素地を身に付ける	1 後 期	15	1		○		○		○		
50	○			ビジネス実務ⅢB	実社会で求められる挨拶や立ち居振る舞い等を実践も踏まえて習得する。	2 前 期	30	2	△	○		○		○		
51	○			英会話Ⅰ	英語の基礎的な単語、文法を学び、会話にすぐ使える基本的な構文を覚え、実際の会話に取り入れることで、英語表現力を身につける。	2 通 年	30	2	○	△		○		○		
52	○			音楽表現技術	音楽の基本と、読譜力をつけることを主とし、する。ピアノ、音楽などに必要な音楽理論の基礎を学習する。	2 後 期	15	1		○	△	○			○	
53	○			幼児と造形表現	造形・色彩研究・デザインなどの学習を通して、幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法を習得する。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
54	○			幼児と健康	乳幼児期の心身の発育発達を具体的に捉え、幼児期の「基本運動」を中心とした運動経験の重要性について理解する。	2 後 期	15	1	△	○		○			○	
55	○			子ども家庭福祉	子どものいる家庭の問題を概観し、権利擁護や子どもを健やかに生み育てる環境づくりを重視した福祉施策を通して、児童家庭福祉の現状を理解する。	2 前 期	30	2	○			○		○		
56	○			社会的養護Ⅱ	社会的養護における子どもの権利擁護や児童福祉専門職の倫理について学習する。	2 前 期	15	1	○			○			○	

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
57	○			子ども家庭支援論	保育所のもつ子育て支援を重要な社会的役割として理解する。家族の変容と子どもを取り巻く社会環境をみつめ、適切な相談、助言のあり方を学ぶ。	2前期	30	1	○			○		○		
58	○			幼児への特別な支援	障害児保育の歴史と理念について学び、障害についての理解を深めていく。保育現場でそれぞれの障害を抱えた子どもや子どもの保護者をどのように支援していく必要があるかを学習する。	2後期	15	1	○			○		○		
59	○			障害児保育	様々な子どもの障害について理解し、養育者や保育者とのかかわりを学習する。	2前期	15	1	△	○		○		○		
60	○			子どもの食と栄養	健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。	2前期	30	2	△	○		○			○	
61	○			子どもの保健	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を学習する。	2前期	30	2	○			○		○		
62	○			多文化共生保育	異文化理解に必要な基本的な概念について学習し、外国の文化や考え方について幼児期から親しみをもつための工夫や環境構成について理解できる。	2通年	30	2	○	△		○		○		
63	○			保育の心理学	子どもの発達を理解し、子どもが人との相互的にかかわりで成長していくことを学習する。	2後期	30	2	○			○		○		
64	○			教育相談	教育相談の意義と原則について学び、保護者支援の基本を学習する	2後期	30	2	○			○		○		
65	○			言語表現	保育者として言語表現技術指導の基礎的知識および必要な技術を身につける。	2前期	15	1	△	○		○			○	
66	○			乳児保育Ⅰ	乳児の成長・発達と発達課題、保育の内容、また実践事例を通し、保育の方法を習得する。	2前期	30	2	○			○		○		
67	○			乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅰで学んだ内容をもとに、子育てを担う保護者を支援する保育者としての役割を自覚し、知識と技能の基礎を身につける。	2前期	15	1		○		○		○		
68	○			教育実習（前期）	幼児や教師と生活を共にすることで、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、同時に教師の仕事について具体的に理解する。	2後期	90	2			○		○	○		○

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
69	○			教育実習事前事後指導	幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解し、教育実習に対する意欲や課題意識を高め、実習に必要な基礎を身につける。	2後期	15	1	△	○		○		○		
70	○			保育実習Ⅰ (保育所)	保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を養う。また、実践的に計画、実践、評価、反省を行うことで課題発見する。	2前期	90	2			○		○	○		○
71	○			保育実習事前事後指導Ⅰ (保育所)	保育実習（保育）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを身につける。また実習の自己評価や総括を行い、新たな課題や目標をもつ。	2前期	15	1	△	○		○		○		
72	○			保育所実習指導Ⅱ	保育に関する基礎的な知識や技能を基盤として、これらを総合的に関連づける力と、保育実践にこれらの知識や技能を応用する力を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○		
73	○			音楽Ⅱ	声楽の基本と、読譜力をつけることを主とする。ピアノ、声楽などに必要な音楽理論の基礎を学ぶ。	2通年	60	2	△		○	○			○	
74	○			図画工作Ⅱ	幼児への造形教育に必要とされる基礎的な理論・技法・表現法の習得する。	2前期	15	1		○	△	○		○		
75	○			パソコン演習	就職活動に向けての自分のアピールポイントを相手に伝わりやすい形で作成できる力を身につける。	2前期	15	1	△	○		○		○		
76	○			介護概論	介護に必要な専門的知識や技術を理解、習得する。	2後期	15	2	○			○	△	○		
77	○			身体表現Ⅱ－1	音楽に合わせて体を動かすことを通してリズム感や創造力、表現力を身につける。また、オペレッタの制作を体験的に学習することで現場につながる保育者の表現力や指導力・構成力を身につける。	2前期	15	1		○	△	○		○		
78	○			身体表現Ⅱ－2	Ⅰでの学びを活かし、より実践的なオペレッタの制作を体験的に学習することで現場につながる保育者の表現力や指導力・構成力を身につける。	2後期	15	1		○	△	○		○		
79	○			ビジネス実務ⅣB	社会人としてすぐに働くことを想定したマナー・考え方・一般常識の習得する。	2後期	45	3	△	○		○		○		

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
80	○			保育教養Ⅰ	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して身につける。	2後期	15	1	○	△		○		○		
81	○			食育Ⅱ	食育Ⅰでの学びを活かし、栄養や調理方法だけでなく実践経験を通して子どもにその重要性を伝える知識、技術を深める。	2前期	15	1	○	△		○		○		
82	○			教育実習指導	教育実習を行う目的を明確にし、幼稚園教諭として必要な知識や技術、実習に臨む態度や心構えを学び、実習への基礎を身につける。	2通年	30	2	○	△		○		○		
83	○			子ども家庭支援の心理学	家族、家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係などについて発達の的に理解し、子どもとその家庭を含む現代社会の状況と課題を理解する。	2後期	30	2	○			○		○		
84	○			ビジネス実務Ⅴ	社会人としてふさわしいマナー、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍できる力を身につける。	3前期	30	2	○	△		○		○		
85	○			子育て支援	保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。	3後期	15	1	△	○		○		○		
86	○			子どもの健康と安全	身近な怪我や疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。	3後期	15	1	△	○		○			○	
87	○			青年心理学	青年期の発達課題について学び、誕生から青年期に至るまでの発達の連続性を見通した知識を習得する。	3前期	30	2	○			○			○	
88	○			保育・教職実践演習	自分自身の課題を意識し、必要に応じて自分自身の不足している知識や技能等を補う力を養う。	3通年	30	2		○		○		○		
89	○			保育者論	実習、知識、技術の学びを経て、保育観や教育観を見直し、保育者としての資質向上を目指し、自分自身の言葉で表現する力を身につける。	3前期	20	1	○			○		○		
90		○		教育実習（後期）	教育実習（前期）の振り返りを基に、幼児や保育に関する知識をより確実なものにし、教師の仕事について具体的に理解する。	3後期	90	2			○		○	○		○

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
91		○		保 育 実 習Ⅰ (施設)	施設実習を通して出会う人々と直接関わりながら、援助の理論と実践に関して理解を深める。	3前期	90	2			○		○	○		○
92		○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観を習得する。	3前期	90	2			○		○	○		○
93	○			保育実習事前事後指導Ⅰ (施設)	保育実習（施設）の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを身につける。	3前期	15	1	△	○						
94	○			保育実習事前事後指導Ⅱ	保育実習Ⅰの反省を踏まえ自己課題を明確にし、保育実践力を磨く力を養う。	3前期	15	1	△	○		○		○		
95	○			教育実習指導Ⅱ	教育実習に向けて、観察記録の作成や指導計画の立案方法、作成方法を身につける。	3通年	20	1	○	△		○		○		
96	○			プレゼンテーション技法	卒業研究・実社会において必要なプレゼンテーション技法を習得する。	3前期	30	2		○	△	○		○		
97	○			音楽Ⅲ（ピアノ）	年間課題曲を弾き歌いできるように習得する。オペレッタや劇遊びなど、音と言葉のつながりや関係を理解し楽譜を作成できる力も身につける。	3前期	30	1	△		○	○		○		
98	○			音楽Ⅲ（器楽・声楽）	合奏、合唱を通し、幼児への楽器演奏の指導方法や指揮者の技術を身につける。	3後期	30	1	△		○	○		○		
99	○			保育実技	指導案の立案、遊びの実践、制作、保護者対応等、保育に関する実技について学び、模擬保育を通して習得する。	3通年	30	1	△		○	○		○		
100	○			卒業制作	3年間の集大成として、これまで学んできた知識、技術を統合し、保育現場で通用する表現力、企画力、実践力等を身につける。	3通年	145	4			○	○		○		
101	○			卒業研究	各種の社会問題に対して、文献レポートを行い、討論しながら問題意識を深める力を身につける。	3後期	55	3	△	○		○		○		
102	○			保育教養Ⅱ	保育者として、保育に関わる情勢や保護者や地域の方との関わり方等を実践を通して身につける。	3通年	30	2	△	○		○		○		
103		○		保育時事Ⅰ	最近の保育の情勢を踏まえ、課題を設定しレポートにまとめる力を身につける。	3前期	40	2		○		○		○		
104		○		保育時事Ⅱ	最近の保育の情勢を踏まえ、課題を設定しレポートにまとめる力を身につける。	3前期	40	2		○		○		○		

(教育・社会福祉専門課程 保育学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
105		○		保育時事Ⅲ	最近の保育の情勢を踏まえ、課題を設定しレポートにまとめ、プレゼンテーションする力を身につける。	3後期	40	2		○		○		○		
106	○			施設実習指導	人間観・保育観・福祉観を築きあげ施設の現状と役割を理解し実習で必要な基礎力を身につける。	3前期	40	2	○	△		○		○		
107	○			ビジネス実務Ⅵ	社会人としてふさわしいマナー、言葉遣いや身だしなみなど、第一線で活躍できる力を身につける。	3後期	15	1	○	△		○		○		
合計							107 科目		2935 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・卒業基準検定もしくは、認定試験の取得 ・授業への出席80%以上 ・履修するすべての科目において、S・A・B・Cいずれかの成績評価を得ること。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学科・専攻で定められたカリキュラムについて履修すること。		1 学期の授業期間	20 週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。